

SDGs “持続可能な養老のまちづくり”

ごみの量を減らすために自分でできることから始めましょう。生ごみの水分量は約80%です。ごみとして出す前に、しっかり水を切りましょう。

家庭の生ごみ処理について

密閉できるフタがついており、生ごみが分解される際に出た液を出す排出口がある専用のバケツを使用し、生ごみを肥料に変えることができます。

- ①生ごみは水分を十分切り、早めにバケツへ入れる
- ②EMボカシを生ごみにまんべんなくかける(夏場は多めに)
- ③空気に触れないようにしっかりとフタをし、密閉する(虫が湧かないようにする)
- ④バケツの下に溜まった液(発酵液)は毎日抜く

※発酵液は1000倍に薄めることで肥料として利用でき、排水溝へ流すことでぬめりを取ってくれます。その日のうちに使しましょう。

◎生活と環境を考える会では、少しでもごみの量を減らす取り組みとして、この専用バケツを市販の半額程度で販売しています。

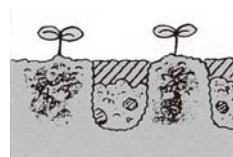


生ごみ堆肥の活用について

畑や庭で

EM生ごみ堆肥を畑の畝と畝の間に入れ、土とよく混ぜ合わせます。専用バケツから出した時点では生ごみは形が残ったままですが、土に入れることで分解します。

(夏は10日程度、冬は1カ月程度)



プランターで

プランターの下層に土を入れ、その上に土とよく混ぜ合わせたEM生ごみ堆肥を入れます。さらにその上に土を被せ、1カ月程度経過してから種や苗を植えてください。

ボカシの効力

- ①生ごみなどの有機物の分解
- ②土壌微生物の活性化
- ③作物の活性化
- ④汚水の浄化

～ご報告～

2月6日(金)に開催した「生ごみ減量のために町民公開講座」には95人の参加がありました。米のとぎ汁や天ぷら油が水を汚す大きな原因となっているため、米のとぎ汁の有効利用を推奨するとともに、天ぷら廃油の回収を実施し、この日は50Lの廃油を回収しました。

養老町も人口減少、少子高齢化の波が押し寄せています。町民自治会議の推進などにより、それぞれの地区で地域課題に向き合っていますが、まさに「養老の持続可能なまちづくり」のために一人ひとりの行動が求められてきているように思います。

☎ 生活と環境を考える会 ☎32-2386

住民環境課 ☎32-1104

陶磁器類・蛍光灯などの有害ごみを集めます

町では、有害ごみ(蛍光灯・水銀を使用している体温計や茶碗、湯飲みなどの陶磁器類、乾電池)を年4回収しています。ごみカレンダーやごみ分別アプリ「さんあ〜る」において、地区ごとの収集場所、搬入指定日、収集時間を確認して出してください。

なお、有害ごみを出すときには以下の事項にご注意ください。

【収集するもの】

蛍光灯(LED除く)、体温計(水銀式)、陶磁器類、乾電池

(それぞれ分別して出してください。電球とLEDは燃やせないごみです。乾電池にはボタン電池も含まれます)

※有害ゴミの収集場所は、通常ご利用いただいている一般ゴミの集積所とは異なりますのでご注意ください。

【搬入時間】

指定日前日の15時～18時、指定日当日の7時～9時

ごみ分別アプリ「さんあ〜る」のインストールはこちらから→



iPhoneなどの
iOS端末用



Android
端末用

☎ 住民環境課 ☎32-1104